

ナミアゲハ
宇賀神 篤
(JT生命誌研究館・奨励研究員)



キンカチョウ
森 千紘
(帝京大学薬学部・助教)



非モデル生物を材料とした 神経行動学の イマとミライ

1990年代以降、神経行動学分野では
モデル生物を用いた研究により、多くの成果が
もたらされてきた。しかし、神経行動学の
そもそもの興りは「動物が自然界で見せる
多彩な行動の背景を神経レベルで理解したい」
という所であり、モデル・非モデルの枠組みに
縛られない、生物多様性を反映した研究が
不可欠となる。

本シンポジウムでは、昆虫、環形動物、魚類、
鳴禽類などの様々な非モデル生物を材料に、
チャレンジングな研究課題に挑む、若手の
神経行動学者7名が、自身の研究材料やその魅力、
今後の展望について、ざっくばらんに紹介する。

カノコスズメ
田路 矩之
(北海道大学理学研究院・博士研究員)



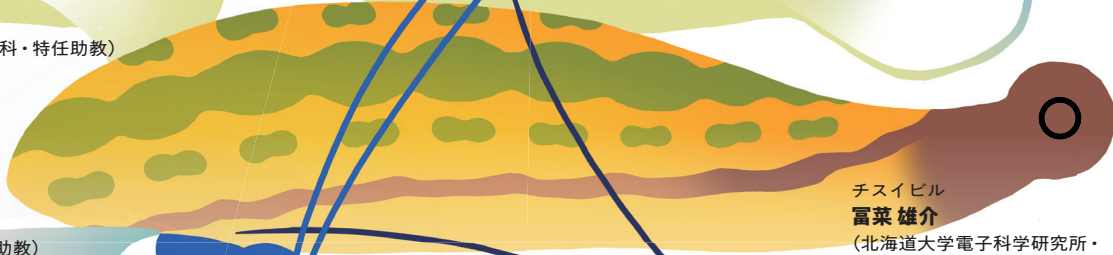
サラサハゼ
萩尾 華子
(名古屋大学高等研究院 / 生命農学研究科・特任助教)



フタホシコオロギ
渡邊 崇之
(総合研究大学院大学先導科学研究科・助教)



チスイビル
富菜 雄介
(北海道大学電子科学研究所・
特任助教)



ワモンゴキブリ
渡邊 英博
(福岡大学理学部・助教)



2021年9月1日 (日本動物学会第92回大会
サテライトシンポジウム)

15:00-21:00

オーガナイザー：渡邊崇之 watanabe_takayuki@soken.ac.jp / 富菜雄介 tomina@es.hokudai.ac.jp

イラスト・デザイン：nebulian.net